

長沼町で観光業で生きる



金山 真大 (かなやま まさひろ)

1993年生まれ、神奈川県川崎市出身。令和6年4月に観光ミッション型として長沼町に着任。大学は立教大学観光学部を卒業後、神奈川県で旅行会社の法人営業を8年間担当する。趣味は「アップルパイノート」作成、ロードバイク旅。2024年4月より協力隊着任。

【応募のきっかけと長沼町との出会い】

首都圏にいと、人の多さや大企業に埋もれてしまうということに日々疑問に思っていました。そんな中、四国一周をロードバイクで旅をした際、高知県の「かっぱバックパッカーズ」というゲストハウスに宿泊しました。その時に鮎の漁師さんとの交流やカツオの薫^{から}焼きなどその地域でしかない出会いや体験をすることができました。そんな体験を自分も提供したいと思い、同時に北海道に住みたいという思いだけで有楽町のふるさと回帰支援センターへ相談に行きました。その中の一つに長沼町がありました。

長沼町を選んだ理由は大きく4つあります。1つ目は立地。将来旅行会社の設立、添乗員をするにあたり新千歳空港から近い場所を考えていました。札幌にも近く人口需要が見込めるため選択しました。2つ目は人（役場）。長沼町は空知管内の中で1番観光客が多

いものの、圧倒的に宿泊客が少ないという課題。課題が明確かつ、ゲストハウスを開くことで微力ながら貢献できると考えたからです。また、観光関連の事業に比較的予算が割かれており、やりがいを感じたからです。3つ目は、トウモロコシのおいしさ。移住ツアーで長沼町に行った際に農家さんの畑で収穫したトウモロコシをその場で茹^ゆでて食べた際、これほどおいしいものはありませんでした。観光農園というわけではないですがオープンマインドである、そのような先進的な農家さんがたくさんいるところです。4つ目は仲間です。同期採用は5名いるので、できることが単純に多いと考えたからです。実際にイベントを手伝ってもらったり手伝ったりしています。移住してマンパワーの重要性を改めて実感しました。

【これまでの活動】

勤務形態として、午前中は役場で観光協会の仕事をしています。主な業務としては「イベントの手伝い・運営」「観光協会HPの更新」「Instagramの運営」。細かい内容だと、イベント関係はさっぽろオータムフェストやエスコンフィールド地域PRブースの出店、北海道そらちグルメフォンドなどの運営などを行っています。



さっぽろオータムフェストの出店のお手伝い

また、観光協会の加盟店を訪問し人脈づくりやInstagramで情報などを取り上げたり、加盟店の営業時間が変わった場合などHPの更新をしたりしています。

残りの時間は比較的自由に活動できるので、ゲストハウスの開業に注力を注ぎ、家主滞在型という形態で今年の1月に『旅人の宿人』を開業しました。3月時点で42人泊の宿泊がありました。このスピード感で開業できたのも役場の方の理解があったからこそであり、とても活動しやすい環境にしてもらっています。

【^{つな}繋がり】

前職がずっと営業であったことからコミュニケーションを図ること、そして人と話すことは大好きでした。基本的にイベントにはできる限り参加し、農家さんのInstagramで「ブロッコリーの収穫が間に合いません」という投稿があったとき、町の野球大会がありました。3時間だけお手伝いに行ったりもしました。スキー場で「カツが余っている」とInstagramで発信し、役場の人10名くらいで4日間連続で食べに行くなどもしました。地域で生きること、事業をすることはそういうことの積み重ねで成り立っていると思っています。協力隊はそんな自分に合っている気がします。

【感謝】

この間、ゲストハウスにフランス人の方が宿泊したときに、町にあるパン屋さんでクロワッサンを購入し、とてもおいしいと言っており、そして後日そのことを店主にお伝えしたところ店主もフランス人がクロワッサンを購入していたのを覚えていたようで、気になっていたそうです。お伝えできて本当に良かったと感じています。台湾人も同じようなことがありラーメンを紹介し喜んでくれました。



ゲストハウスのメインの部屋『旅人の宿人』

【壁】

2月はたくさんの外国人からの予約がありましたが、2月はご存じのとおり札幌雪まつりの時期になります。ほとんどが長沼町での観光ではなく、札幌での宿泊代が高すぎるために長沼町に泊まった方が多かったです。3月も一週間3名の台湾人の方が宿泊しましたが、ほぼ夕張のスキー場に通っていました。今後、長沼町で消費をしてもらうための工夫が必要と感じました。

【将来の展望】

ゲストハウスの運営とは別に、旅行会社の設立を考えています。どのような業態で行うか模索中ですが、メインの事業としては着地型のツアーを造成することを考えています。長沼町の中心街に人が行かない、日帰りの観光客が多いなど、これらの課題を解決していきたいです。さらにゆくゆくは空知エリアや近隣の市町村を巻き込んだ活動をしていくつもりです。そして、前職での経験を生かして添乗員の業務も行う予定です。

また、民泊は営業日数が180日間と制限されています。空いた時間でできるWEBライターの仕事ができるように地元の仲間の協力を得ながら取り組んでいる最中です。

夢は自分と宿泊者の情報を集めたオリジナルの旅行雑誌を作成することです!!



フランス人の方と一緒に北海道開拓の村へ